

# 石川県内の山地で記録されたオジロワシ

上馬 康生・中村 正博 石川県白山自然保護センター

## WHITE-TAILED EAGLE (HALIAEETUS ALBICILLA) IN THE MOUNTAIN DISTRICT IN ISHIKAWA PREFECTURE

Yasuo UEUMA and Masahiro NAKAMURA, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*

### はじめに

1982年の冬期に、白山の山中でオジロワシが観察された。これは今までにないことであり、しかも同時期に石川県内の山地での記録が相次いであった。

オジロワシは、わが国では北海道で留鳥として生息しており、北部及び東部で繁殖が知られている(森, 1980)。そして本州以南にはふつう冬鳥として飛来し、主に海岸沿いや平野部の湖、池、大きな河川に生息している。石川県内でも河北潟や片野鴨池など、海に比較的近いところの潟や池が飛来地として知られている。ところが山地で、しかも数例の記録が同時期にあったのは珍しいことであるので、隣接する富山・福井県の記録も含めて、若干の考察を加えて報告する。

### 石川県内の山地での記録

県内の山地で観察されたオジロワシの記録は表—1に示した5例である。その中でA<sub>1</sub>~A<sub>3</sub>は、いずれも同じ場所での記録で、飛び方や飛行方向も類似していることが特徴である。尾根上で旋回上昇し、

表—1 石川県内山地でのオジロワシの記録

記号	場 所	年 月 日	時 刻	天 気	幼・成 鳥 別	状 況	観 察 者
A <sub>1</sub>	金沢市医王山	1982. 2. 13	11: 25~30	晴	成 鳥	標高 400~500 mの尾根上を旋回後、北東方向へ滑空して別の標高 300~400 mの尾根上を施回上昇しながら尾根沿いに移動し、その後尾根の東方(北東方)へ向かう。	上 池 馬 田
A <sub>2</sub>	同 上	1982. 2. 13	11: 35~42	晴	幼 鳥	A <sub>1</sub> と同じ付近を旋回後、北東方向へ滑空していく。	上 池 馬 田
A <sub>3</sub>	同 上	1982. 2. 28	10: 20~27	晴	幼 鳥	標高 400 m付近を旋回上昇し、東方へ滑空して標高 500 mの尾根上で旋回しながら尾根沿いに移動し、その後尾根の東方(北東方)へ向かう。	池 田
B	吉野谷村市原	1982. 3. 1	13: 30~45	曇	成 鳥	手取川左岸の標高 500~600 mの尾根上を旋回後、旋回しながら上流方向へ向い川の右岸に達し、上昇後再び来た方向へ滑空してもどり、尾根上で施回後消失。	茨 中 上 木 村 馬
C	吉野谷村中宮	1982. 3. 22	9: 30~40	快晴	成 鳥	手取川上流尾添川の右岸に流れ込む谷の入口付近から施回上昇し、西北西へ向かい、右岸の標高 1000 mの尾根を越える。	茨 野 木 崎

その後滑空して東方ないし北東方向へ飛行している。またBとCは、海岸より直線距離で約24 km、約32 kmと離れた山地であるが、共に手取川の上流部に位置しているという共通点がある。

北陸地方における記録

石川、富山、福井の北陸3県でオジロワシの記録が報告されているものに、石川県(1981)、富山県(1977、1980)、日本野鳥の会福井県支部(1979、1982)、福井県鳥獣保護センター友の会(1981)、福井県(1982)などがあり、これらを地形図に示すと図一1のとおりである。この中でA、B、Cは前記の石川県内の山地での記録である。図には、毎年観察例が多く、長く滞在していると考えられる主要生息地と、一時的に飛来したと考えられる場所とに区別して示した。主要生息地は、石川県の片野鴨池、河北潟、富山県の富山新港、富山空港、福井県の福井新港、三方五湖などである。海岸沿いか海に比較的近いところの開けた環境にある池や湖がほとんどである。いずれも水鳥の飛来地になるなど、餌場の条件を備えたところである。また一時的に飛来したと考えられるところの大部分も、海岸か平野部の池や大きな河川である。ただし例3(1980、2、9他)、例10(1976、10、21)、例18(1981、2、4)、例22(1979、1、28、1982、2、28)、例23(1982、2、20)は山沿いないし山地での記録となっている。



A	石川県	金沢市	医王山
B	"	吉野谷村	市原
C	"	吉野谷村	中宮
1	富山県	朝日町	泊海岸
2	"	朝日町	宮崎海岸
3	"	宇奈月町	
4	"	富山市	富山空港
5	"	富山市	三ノ熊古洞池
6	"	小杉町	恩坊池
7	"	新湊市	富山新港
8	"	高岡市	牧野地内庄川
9	"	高岡市	雨晴海岸
10	"	福岡町	沢川
11	石川県	羽咋市	千里浜海岸
12	"	金沢市	津幡町 河北潟
13	"	辰口町	岩内地内手取川
14	"	小松市	木場潟
15	"	加賀市	柴山潟
16	"	加賀市	片野鴨池
17	福井県	芦原町	北潟湖
18	"	金津町	清滝(ダム)
19	"	三国町	新保
20	"	三国町	福井新港
21	"	三方町	三方五湖
22	"	三方町	三十三間山
23	"	上中町	末野

図一1 北陸地方におけるオジロワシの生息地

(注) 最低等高線は標高200 m、次が1000 mを示す

この中で特に例3については1980年～1982年の毎冬期に記録され、その付近にすみついているようで、ノウサギを運んでいるのが観察されている(室山、私信)。

また新潟県でも、飛来地は海岸沿いや平野部の潟や池、大きな河川が主であるが、信濃川の上流(直線距離で海岸より約36km、河口より約66km)の中里村宮中ダムには毎年飛来しているとのことである(風間、私信)。

## 考 察

石川県内で観察された記録については、A<sub>1-3</sub>とB・Cの2組が地域的にも飛行コースの上からも共通性があるので、この2つに分けて考えてみる。

まずAの記録場所は、石川・富山県境の医王山(939m)の北部の山地である。標高は200～600mで、せまい谷沿いにアカマツを混じえたコナラを主とする二次林と、スギ植林地及び数軒の集落がある。川は小さく、また大きな池などのオジロワシの餌場となるようなところはない。そこでこの場所へ餌を目的として飛来したとは考えにくい。一方でこの場所は、地形的には白山から北へ続く主稜線がここで一度とぎれ、北方にある宝達山(637m)との間の丘陵帯の谷間に面する位置になっている。そして西方の金沢平野と、東方の砺波・富山平野を結ぶような形となっている。両方の平野部には、図1に示したようにオジロワシの飛来地が点在している。

現地での3例の観察により、いずれも同じように尾根上で旋回上昇して、東方ないし北東方向へ飛行していることがわかっている。つまり富山平野の方向へ向かっていると考えられる。また以前にオジロワシと同じような環境に生息し、行動なども類似しているオオワシの個体識別された同じ個体が、河北潟と鴨池との間を往来しているのが観察されている(1974. 1. 15～1. 27)。これらのことから、

越冬地間をオジロワシが往来し、その中で金沢平野から富山平野への移動の途中に医王山の北部を通り、Aの場所を上昇ポイントにしたとも考えられる。

3例はいずれも2月の記録で、北陸地方で知られている越冬期間(11月～3月下旬)中である。渡りの時期にもこの付近が通過コースとなっている可能性が大きい。例10は宝達山の東側の山地での記録で、10月21日の観察であり、当地方の通例の記録からは早い時期にあたるので、北方からの渡りの途中に通過したと考えることもできる。

次にB、Cについてみてみる。Bは手取川上流の、標高500～900mの稜線ではさまれた比較的広い谷間で、峡谷の両側は水田や集落が広がっている。CはBよりもさらに上流で、稜線は1000～1400mの標高があり、谷間には畑や集落がある。植生は両方ともミズナラ、コナラ中心の二次林、ブナ林、スギ植林地などである。川には少数ながらカモ類の生息するところがあり、上流にはダム湖があり不定期にカモ類が飛来している。

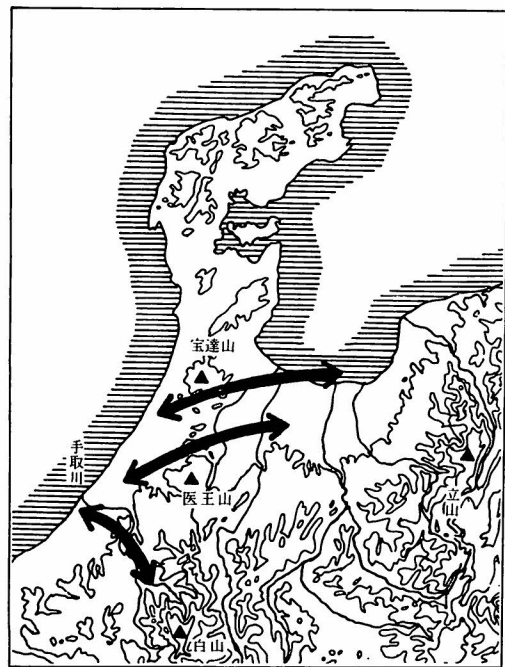


図-2 オジロワシの予想される飛行コース

これらの観察によると、オジロワシは下流方向から飛来して再び下流へ移動したり、谷の中から上昇して下流方向へ向かっている。この地域では今までに記録はなく、これら2例の前後の観察では発見されていない。そこで前記黒部川や信濃川上流の例のように、冬期にそこにすみついているのではなく、一時的に川沿いに上流へ餌を求めて飛来したものと考えられる。手取川には例13(1982, 2, 13, 成鳥2羽)のように、河口から少し上流の場所でも川原に降りているのが観察されている。

また例18、22、23に関しては詳細は不明であるが、主要生息地に近く、これらも餌を求めて山地まで入り込んできたものと考えられる。

なお長野県では諏訪湖や千曲川に記録があり(日本野鳥の会長野支部、1979)、栃木県中禅寺湖(日本野鳥の会栃木県支部、1981)、東京都の多摩湖、三頭山(東京都公害局、1975)でも記録されている。これらのことから、一般的には海岸や平野部の池や湖、河川に生息することの多いオジロワシも、大きな河川や湖があり餌等の条件があれば、かなり内陸部まで飛来し、一時的あるいは連続して生息するようである。そして、オジロワシは、越冬地では必ずしも一か所に滞在しているのではなく、各地の湖や河川など生息に適する場所を往来し、中にはかなり長距離の移動をする個体があるものと考えられる。

またオオワシも、前記の河北潟と鴨池との間の往来の記録の他に、山中町我谷ダム(1976年2月)のように山地のダム湖での記録があることから、オジロワシと同じような移動をしているものと考えられる。

なお正確さを期するためには、さらに多くの記録の集積と、標識調査など個体識別をしたワシの動きを追跡するなどの方法が必要である。

## 謝 辞

この報告をまとめるに当っては多くの方々から情報や資料を教示していただいた。石川県内の山地での記録は、筆者らの他に金沢大学理学部生物学科の池田善英氏、白山自然保護センターの茨木友男、野崎英吉氏から情報をいただいた。また福井県鳥獣保護センターの林哲氏、福井県三方町の久保上宗次郎氏、富山大学理学部生物学科の室山尚英氏、新潟県自然保護課の風間辰夫氏には、各県の情報を教示していただいた。また日本野鳥の会の花輪伸一氏にはその他の地方での情報を教えていただいた。これらの方々には厚くお礼申し上げます。

## 文 献

- 福井県鳥獣保護センター友の会(1981) 福井県鳥獣保護センター渡り鳥保全調査報告書
- 福井県(1982) 福井県の鳥獣、福井県生活環境部自然保護課
- 石川県(1981) 石川の動植物、石川県環境部自然保護課
- 石川野鳥の会(1978) 我谷ダムとその周辺の鳥類、加賀南西部地域自然環境調査報告書、78—80、石川県環境部
- 森 信也(1980) オジロワシの繁殖生態、鳥29、47—68
- 日本野鳥の会福井県支部(1979) 日本野鳥の会福井県支部報32
- 日本野鳥の会福井県支部(1982) 日本野鳥の会福井県支部報44
- 日本野鳥の会栃木県支部(1981) 栃木県産鳥類目録
- 日本野鳥の会長野支部(1979) 長野県鳥類目録
- 東京都公害局(1975) 東京の鳥、日本野鳥の会
- 富山県(1977) とやまの野生鳥獣、富山県自然保護課
- 富山県(1980) 富山県の鳥獣、富山県自然保護課

### Summary

A White-Tailed Eagle(*Haliaeetus albicilla*), normally wintering at the seacoast, lake or pond in the open field, was observed for the first time in Mt. Hakusan in the winter of 1982. Four other observations of a flying eagle were gotten in the mountain district in Ishikawa Prefecture. Among the five observed eagles, two came flying to the upper part along the river for food and other three were on their way from one wintering ground to the other. It was found that the White-Tailed Eagle come flying not only to the seacoast, lake or pond in the open field but to the mountain district.